

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
パシフィックテクノカレッジ学院	平成22年2月28日	村田 透	〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜三丁目29-1 (電話) 098-897-2323																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人パシフィックテクノカレッジ学園	平成11年9月30日	辻野 信成	〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜三丁目29-1 (電話) 098-897-2323																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	自動車整備科	平成22年文部科学省告示第153号	—																							
学科の目的	自動車整備士を育成すべく、幅広い知識と実践的な技能・技術・技術者マインド並びに対人スキル及び資格取得を目的とする。																										
認定年月日	平成 30年 2月 28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	2年	2670時間	1040時間	1630時間		単位時間																					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
140人	107人	0人	7人	2人	9人																						
学期制度	■1学期: 4月 1日~9月30日 ■2学期: 10月 1日~3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前期及び後期試験結果からの評価。A: 85~100点 B: 70~84点 C: 50~69点 F: 49点以下																						
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 8月 1日~8月31日 ■冬季: 12月27日~1月 6日 ■学年末: 3月11日~3月31日		卒業・進級条件		①年間授業時数の80%以上の出席率 ②所定の授業科目を履修していること。 ③期日までに授業料を全額納付している事。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ①無届欠席者への連絡方法、連絡体制の確立 ②定期的に教務会議を開催し、出席指導方法等の情報共有を実施。		課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学生自治会組織、地域清掃ボランティアの実施、インターシップ、施設見学など ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車販売ディーラー、民間整備工場、損害保険会社、軽自動車検査協会 ■就職指導内容 ①就職担当を専任する事でのきめ細かな就職支援 ②担任、就職担当が連携し就職指導を実施		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス溶接技能</td> <td>①</td> <td></td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>アーク溶接</td> <td>①</td> <td></td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td>2級整備士G</td> <td>②</td> <td></td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>2級整備士D</td> <td>②</td> <td></td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ガス溶接技能	①		45人	アーク溶接	①		39人	2級整備士G	②		47人	2級整備士D	②		45人
	資格・検定名	種						受験者数	合格者数																		
ガス溶接技能	①		45人																								
アーク溶接	①		39人																								
2級整備士G	②		47人																								
2級整備士D	②		45人																								
■卒業者数	48	人																									
■就職希望者数	47	人																									
■就職者数	47	人																									
■就職率	100	%																									
■卒業者に占める就職者の割合	97.9	%																									
■その他 ・進学者数:	0	人																									
(平成 29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																											
中途退学 の現状	■中途退学者 8 名		■中退率 7.4 %		平成29年4月1日時点において、在学者107名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者99名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、出席不良、家庭の事情、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①担任、学院長による学生及び保護者面談の適時実施 ②奨学金相談窓口開設、教育ローンなどの経済的支援																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有※有の場合、制度内容を記入自己推薦制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.ptc.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための自集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とは、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 教育課程編成委員は学院職員と企業・業界団体役員等の学外委員から成るものとし、実践的な技術を持ち広く社会に貢献できる人材を育成するために連携し、必要な情報収集及び分析を行いより良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
金城 透	沖縄県自動車整備振興会	平成30年2月1日～ 平成31年3月31日(1年)	①
喜友名 満那	喜友名自動車サービス	平成30年2月1日～ 平成31年3月31日(1年)	③
村田 透	パシフィックテクノカレッジ学院		
阿波連 毅	パシフィックテクノカレッジ学院		
大城 勝	パシフィックテクノカレッジ学院		
新垣 務	パシフィックテクノカレッジ学院		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催される。

第1回 11月末までに 第2回 3月末までに

(開催日時)

第1回 平成29年2月2日 9:30～11:00

第2回 平成29年9月12日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. 就職定着向上に資する県内外就活ガイダンス及びインターンシップを企業等と連携して実施する。
2. 過去3年間の全ての就職先企業へ就職定着率調査を実施した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的且つ専門的な職業教育を通じて学科の教育活動の質の保証・向上を図る。工業分野の職業に係る就労意識及び継続的な学習意欲の醸成、並びに教育課程の電気・機械分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得又は向上に資する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1. 「インターンシップ」企業等との提携に基づき、自動車分野の企業研修を行います。学生の報告書及び研修担当者の所見を以て学習成果を評価します。授業科目 実習の一部として実施する。
2. 沖縄マツダ販売㈱との連携によるスカイアクティブD体感セミナーを学内で実施する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実習Ⅰ(ブレーキ・サス分解)	連携企業の工場内又は事務所にて担当社員の指導のもと、当該学科の専攻分野の実務や技能に関する実習を行う。	沖縄マツダ販売株式会社 琉球日産自動車株式会社 沖縄トヨタ自動車株式会社 トヨタカローラ沖縄 沖縄トヨペット
実習Ⅰ(電装品・基本電子)	スカイアクティブD体感セミナー(講習会)	沖縄マツダ販売株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学院の教員研修規定に基づき、教員に対して現在就いている職又は将来就くことが予想されるに係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させることにより、その職務の遂行に必要な教員の能力、資質等の向上を図る。教員個々の経歴・属性に応じた研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

沖縄県自動車整備振興会との連携のもと、平成29年9月19日及び20日に2名の教員に対し自動車検査員講習を受講させた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

職業教育キャリア教育財団と連携し、平成29年8月下旬に新任・準教員研修を受講させた。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・沖縄県自動車整備振興会との連携のもと、平成30年9月下旬に自動車検査員講習を受講予定。
- ・UDトラックス株式会社と連携のもと、平成30年8月28日に最新技術研修を受講予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

・(一財)消防危険研究センターと連携のもと、受験指導の取り組み方、特定試験制度、試験ポイント講習などを教員研修として、平成30年8月初旬に受講予定。

・職業教育キャリア教育財団と連携し、平成30年8月下旬に新任・準教員研修を受講予定。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学院の教育目標・計画に沿った取り組みの達成状況、学院運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに評価結果を公表する。文部科学省「専修学校における学校評価のガイドライン」に準じて実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生募集と受入れ
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ① 学生の対人スキルに関して、研修を通し若年者のメンタルについて学習している。その情報を教員間で共有し、指導力向上に努める。
- ② 就職定着率調査等で、学院で真の退職理由が把握できたら、企業等と共有し就職定着向上に向け連携を強化する。
- ③ 地震津波避難訓練等防災訓練を通し、学生の防災意識向上に努める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
豊田 和男	株式会社トライエア 代表取締役	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年)	企業側代表
福富 健仁	トマス技研研究所 代表取締役	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年)	企業側代表
上江洲 博	照屋電気工事株式会社 代表取締役社長	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年)	企業側代表
金城 透	沖縄県整備振興会 事務局長	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年)	企業側代表
田原 美枝子	PTA代表	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年)	保護者
小谷 良太郎	卒業生代表	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.ptc.ac.jp> 平成29年9月20日公開

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当学院は、教育機関としての社会的責務を果たすとともに、実践的かつ専門的な職業教育における質の向上及び学院運営の改善に資することを目的に、学院情報を公開する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.ptc.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			構造及び性能(シャシ)	自動車シャシの概要、動力伝達装置、サスペンション、ホイール・アライメント、ブレーキ全般を学習する。	1・通	80	4	○			○		○		
○			構造及び性能(エンジン)	ガソリンエンジン本体の概要と構造、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、点火装置、電子制御装置に全般について学習する。	1・通	92	5	○			○		○		
○			自動車力学	自動車2級整備士に必要な計算、(軸重、遊星歯車等の)考え方を学ぶ	1・通	80	4	○			○		○		
○			電気電子理論	電気の基本と自動車の電装品、電圧、電流、抵抗の計測方法、モーターや発電機の基礎から原理、エア・コンディショナ、SRSエア・バック・システム等の構造、機能を理解する。	1・通	68	3	○			○		○		
○			燃料潤滑剤油脂	石油精製法、燃料の性状と規格、潤滑、及び潤滑剤、潤滑作用、摩擦力、作動油について理解する。	1・前	20	1	○			○		○		
○			自動車材料	材料の構成と動向、金属の種類、強さ、疲労、性質、変形、試験方法、鉄鋼材料の製法、炭素鋼の熱処理による変化、鋳鉄の性質、種類と用途、非鉄金属の種類特徴等を理解する。	1・後	20	1	○			○		○		
○			製図	製図に用いる数字や線、記号の書き方及び製図の見かた、様々な種類の投影法を学習する。	1・前	20	1	○			○		○		
○			エンジン整備法	エンジン本体の点検整備、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、点火装置の点検整備法について学習する。	1・後	28	1	○			○		○		
○			シャシ整備法	動力伝達装置、サスペンション、ステアリング、タイヤ、ホイール、ホイールアライメント、ブレーキ等の脱着、分解、組み付け、点検の方法を理解する。	1・後	32	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 0 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			電装整備法	バッテリーの基礎知識・充電法、始動装置、充電装置、点火装置等の整備法を学習する。	1・後	20	1	○			○		○		
○			機器取り扱い	計測機器概要、工具、作業用機器、一般測定器、E/G点検・調整機器、電装装置検査・調整機器、車両点検・調整機器・自動車検査用機器を学習する。	1・通	40	2	○			○		○		
○			安全衛生	安全と衛生の意味を理解し、災害の原因と傾向を考える。作業時の服装、行動、5Sを学習する。工具や動力機械の取り扱いを学習する。	1・前	20	1	○			○		○		
○			測定基礎実習	エンジンを分解しノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、シリンダゲージ、キャリパゲージ等を使用して内部の各所を測定し測定機器の使用方法を理解する。	1・前	60	2			○	○		○		
○			機械操作実習	リフト、ガレージジャッキ、リジトラックの取り扱い・使用方法、保守管理の必要性、安全確認の重要性を実際に使用し学習する。	1・前	56	1			○	○		○		
○			工作基本実習	工作用工具（ポンチ、タップ、ダイス、バイス、やすり、弓のこ、卓上ボール盤）の使い方を学習する。	1・前	56	1			○	○		○		
○			ガソリンエンジン分解	実際のガソリンエンジンを分解・組み付けを通して、エンジン本体の構造・部品名称の理解を深める。	1・前	48	1			○	○		○		
○			ディファレンシャル分解	ディファレンシャルの仕組みを学習する。脱着、分解、組み付け、各部点検を行いバックラッシュ、プレロード等を理解する。	1・前	48	1			○	○		○		
○			クラッチ分解	実習・動力伝達装置におけるクラッチの構造及び原理を学習する。	1・前	36	1			○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ブレーキ①	自動車の制動装置を単体で分解組み立て。ブレーキの仕組みと種類を実習を通して学ぶ。	1・前	36	1			○	○		○		○
○			電装品 基本電子	実習・基礎電気工学における、ダイオード・コンデンサ・トランジスタ等を使った電気回路、オシロスコープの基礎	1・後	36	1			○	○		○		○
○			就職試験 実技対策	近年、自動車業界での就職実技試験におけるロールプレイング及び実技対策実習。	1・後	12				○	○		○		
○			エンジン脱着	エンジンを脱着を通して、脱着する判断基準、脱着する際の注意点、安全性の確保、各装置の部品名称と取り付け状態を理解する。	1・後	36	1			○	○		○		
○			M/Tミッション 分解	自動車で使用されてる手動変速機を分解組み付けをし、変速の仕組みや名称シンクロの役割等を理解する。	1・後	48	1			○	○		○		
○			ステアリング 分解	実習・ステアリングギヤボックス脱着、分解・組付け及び測定	1・後	36	1			○	○		○		
○			サスペンション 分解	サスペンションの脱着、分解、組み付け、スタビライザ、電子制御式サスペンション（ショック・アブソーバ制御式）を学習し理解する。	1・後	36	1			○	○		○		○
○			充電 始動装置	実習・スターター(直結式、リダクション式)の基本構造及び測定、オルタネーターの基本構造及び測定	1・後	24	1			○	○		○		
○			吸排気 潤滑 冷却装置	E/Gオイルポンプの点検・修正方法、組み立ての要点、ラジエータ及びサーモスタットの点検・修正方法、エア・クリーナの点検・修正方法を学習する。	1・後	32	1			○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ホイールアライメント	キャンバ、キャスト、キングピンの測定とトーインの測定・調整方法、タイヤの構造と役割から、アライメントの重要性などを理解する	1・後	32	1			○	○		○		
○			燃料点火装置	燃料系統部品の取り外し、取り付けの要点、イグニッションコイルの点検方法、スパークプラグの点検方法を学習する。	1・後	24	1			○	○		○		
○			シャシ電装	実習・ワイパー、パワーウィンドウ、エアバック等の脱着、その他電装品に関わる基礎	1・後	24	1			○	○		○		
○			到達度試験	1年次に習得した全ての実習における理解度及び技術力を確認する為の実技試験。	1・後	35				○	○		○		
○			コンピュータ概論	ICT活用スキルを有する人材の育成を目指す。実技演習では Word・Excel等の基礎的な技能を習得させる。知識習得に関しては、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ等を講義する。	1・通	40	1			○	○			○	
○			就職実務	企業の採用活動、就職活動について理解させ、企業情報収集から応募書類の作成を実践させる。	1・通	40	2	○			○		○		
○			構造及び性能(シャシ)	オートマチック・トランスミッション、フレームとボデー、自動車の諸元、パワーステアリング等の知識を向上させる。	2・前	40	2	○			○		○		
○			構造及び性能(エンジン)	ジーゼルエンジン本体の概要と構造、ジーゼル車の、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、点火装置に全般について学習する。	2・前	40	2	○			○		○		
○			性能	熱効率、平均有効圧力、仕事率、諸損失、体積効率及び充填効率基礎知識	2・前	20	1	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電気電子理論	論理回路の理解進数法及びデジタル通信信号の原理、制御、CAN通信システム、光通信システムの原理等を学習しハイブリット車や電気自動車への知識を向上させる。	2・前	20	1	○			○		○		
○			エンジン整備法	ジーゼルエンジン本体の点検整備、バッテリーの構造・点検、充電装置の構造・点検、始動装置の構造・点検整備法について学習する。	2・前	20	1	○			○		○		
○			シャシ整備法	オートマチック・トランスミッション、エアサスペンション、パワーステアリング、タイヤ、ABS等の点検、不具合現象からの故障探求を学習する。	2・前	20	1	○			○		○		
○			電装整備法	電子制御における始動装置、充電装置、点火装置、燃料装置等の制御に関わる基礎知識を学習する。	2・前	20	1	○			○		○		
○			故障探求	ガソリンエンジンの故障原因と探究、電子制御式燃料噴射装置の故障原因と探究、ジーゼルエンジンの故障原因と探究、外部診断機（スキャンツール）の活用による故障と探究を学習する。	2・後	24	1	○			○		○		
○			対策授業	二級ガソリン・ジーゼル自動車整備士国家試験に向けた国家試験演習。	2・後	172	9	○			○		○		
○			検査法	道路運送車両法保安基準における検査法の知識	2・通	32	2	○			○		○		
○			関係法規	道路運送車両法における関係法規の知識	2・通	32	2	○			○		○		
○			ディーゼル・エンジン分解 ディーゼル燃料装置	ディーゼルエンジンとガソリンエンジンの違いを分解組み立てで学ぶ、ディーゼルエンジン特有の燃料装置の種類を確認する。	2・前	48	1			○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エアコンディショナ	エアコンの分類、熱交換器の分類、コンデンサ及びレシーバ、コンプレッサー種類等の脱着及び分解、クーラーガスの充填方法、点検及び修理方法。	2・前	40	1			○	○		○		
○			12ヶ月点検	12ヶ月を通して、定期点検整備の必要性、点検項目と時期、効率的な作業手順及び点検項目ごとの作業要領、判定方法を学習する。	2・前	40	1			○	○		○		
○			ドライブ・シャフト分解・組付・調整	ドライブ・シャフトの実車からの取り外し、分解、グリス入れ替え及びブーツ取り替え、組付、調整迄をおこなう。	2・前	40	1			○	○		○		
○			パワーステアリング分解・組付	仕組みを理解する。オイルポンプの分解、組み付け、各部点検、油圧ゲージの使用方法を理解する。電子制御式パワー・ステアリング（反力制御式）の作動を理解する。	2・前	60	2			○	○		○		
○			オートマチックトランスミッション分解・組付	マニュアルトランスミッションとの違いを分解、組み立てで学習する。多板クラッチや電子制御装置の部品等の役割や部品の確認を実習で学ぶ。	2・前	72	2			○	○		○		
○			自動車検査	検査ラインを使用し、車検制度、保安基準についての理解、検査項目ごとの作業要領、判定方法を学習する。	2・前	60	2			○	○		○		
○			応用電子	はんだごて等を使用してのサーキット・テスト作成及びその他、電子機器、素子等の組付作成をおこない、正常に機能するか否かの判断テストまでをおこなう。	2・前	60	2			○	○		○		
○			ブレーキ②	実習・ブレーキ点検方法及び整備全般、ABSの基本構造及び制御の仕組みを学習する。	2・後	252	6			○	○		○		
○			故障探求 トラブル・シューティング	実際に起こり得るであろう電気、電子部分の故障を意図的に作り機器、テスト等を使用し、車輛の症状、点検概要、推定原因及び根拠までをマニュアルをもとに導きだす。	2・後	168	4			○	○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 0 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務	企業の採用活動、就職活動について理解させ、企業情報収集から応募書類の作成を実践させると共に、就職内定者向けのキャリア教育を並行して行う。	2・通	40	2	○			○	○			
合計				55科目			2635単位時間(94単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①年間授業時数の80%以上出席していること。②所定の授業科目を履修していること。③期日までに授業料を全額納付していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。